

次世代光干渉計

通信量増大に伴う、光干渉計の占める面積増大に対し、面積の制約を緩和する。

概要

光干渉計（例えばマツハ・ツェンダ干渉計）に基づく光回路は、光量子コンピュータ、光AIアクセラレータ、空間多重伝送通信等の、光を用いた次世代型情報処理技術のハードウェアとして重要視されている。従来、大規模な情報処理を行うためには大規模な光回路が必要であり、回路規模には光学テーブルやウェーハの面積の制約があった。

本発明の光干渉計を用いることで、前記の面積の制約を緩和し、光回路のさらなる規模拡張が可能となる。

応用例

- 光量子コンピュータ
- 光AIアクセラレータ
- 光計算機（行列演算）
- 光通信の受信機（MIMO処理）

知的財産データ

知財関連番号 : PCT/JP2023/041412
発明者 : 松田 信幸
整理番号 : T23-038

性能・特徴等

※特許未公開につき、オプション契約等の秘密保持条項を含む契約の締結後に、情報開示および事業化をご検討いただけます。お気軽にご連絡ください。

関連文献

お問い合わせ

株式会社東北テクノアーチ

TEL 022-222-3049 お問い合わせフォームは[こちら](#)